



巡礼その五十一 木曾

2020年4月10日

4時起床、4時30分 ミニに乗り出発。まだ暗い。首都高、中央自動車道にほとんど車はいない。一気に諏訪サービスエリアまで行き、朝食。まだ6時なので客は誰もいない。私はカツカレー、妻はワンタン麺を食べる。なかなか美味しい。伊奈インターチェンジで下り、国道を通過して木曾の原野の町に入る。今回の旅行の目的は御嶽山の麓にある、木曾の開田高原と飛騨の日和田高原に残る馬頭観音と石仏を訪ねることである。はじめに木曾町日義原野にある庚申塔と線彫馬頭観音を訪れる。ちょうど子供達の登校時間である。線彫馬頭観音は集会所の前にあった。白カビがひどいが何とかわかる。木曾福島へ向かい開田高原を目指す。途中黒川の道祖神を始め馬頭観音や石仏が旧道沿いにある。まず黒川郷で旧道に入るとすぐ道端に石で龕を作り中に馬頭観音などを安置してあるところが10m おきにある。ここは上志水というところで道祖神もある。小川が流れており、とてもおんびりした所で水仙が綺麗である。桜の木もたくさんあるがまだほころびていない。隣の栃本にも道祖神がある。ここでも龕を作り馬頭観音が安置されている。本道に戻ると東山観音堂があり中に三十三観音が安置されているが閉まっていて見学できない。少し先でまた旧道に入ると下中入の公民館がありこの前にとても珍しい石仏がある。蚕影山の仮の姿である金色姫（養蚕の神）を上部に彫り、下には流れ着いた金色姫を育てた老夫婦が彫られている。道を隔てた反対側には沢山の石仏が一行に並んでいる。少し先に湧き水が流れているところがあり、地藏堂がある。ここにも石仏が安置されている。本道に戻るとすぐに吉田の道祖神と石仏がある。国道が川を渡るところに橋詰の道祖神が安置され、お堂の中にも石仏が安置されている。その先に白山御岳神社の鳥居が見える。参道を流れる小川で水芭蕉が咲いていた。鳥居の横には新しいものであるがとても良く彫られた蠶玉大明神と大日如来、十一面観音が並んでいる。この神社の本殿の彫刻が素晴らしい。向拝正面の「瓢箪から駒」の彫刻は傑作である。また龍や鳳凰、麒麟、鯉、など素晴らしい彫刻で埋め尽くされている。野中には勢至菩薩と石仏が安置されているが、この辺のものはカビがひどくて彫りがよくわからない。さらに行くと安倍晴明の墓がある。晴明の像は片膝を立てて、右手で右耳を触ってる不自然な

姿勢であるが、この像を右側から眺めるとなんと狐に見えるのである。この像の前は小川が流れており、そこに樽沢の道祖神と石仏が並んでいる。この先からいよいよ開田高原で末川村に入る。まず丸山の馬頭観音を見に行く。丘の中腹には絵馬堂があり、この中に実物大の馬像が安置されている。さらに登った頂上にはお堂の中に馬頭観音立像が祭られている。お堂の正面欄間には天女像が彫られている。この辺りからの御嶽山は美しい。近くの瑞松寺には名工「守谷貞治」作の延命地藏像が安置されている。川のほとりには「末川村稗田の碑と石仏群」、西国三十三観音を祀った堂がある。ここの観音堂は開いているので中の観音を見学する。トイレに行きたかったので開田郷土館へ行く。中には最後の純血種「第三春山号」の剥製があった。さらに進むと馬橋の石仏がある。ここの石仏も変わっており、一つは中央に十一面観音、右に不動明王、左側に毘沙門天の三尊が彫っており、もう一つは一石三十三体観音である。とても出来が良い。把之沢の村に入るとすぐに「把之沢稗田の碑と石仏群」がある。今まではほとんどが頭上に一頭の馬を乗せた単体の馬頭観音像であるが、ここでは双体の馬頭観音像が見られる。村の中に入ると文化財の山下家住宅がある。山下家の先祖は代々「伯楽」と呼ばれた馬の医者で、江戸時代には庄屋・鍛冶屋とともに村の三役をつとめた大馬主である。開田古民家の伝統的な切妻造りで、県宝に指定され、木曾馬関係の資料も展示されている。400円払って見学する。お昼になったので近くにある「高原食堂」でざるそばを食べる。普通のざるそばは2枚で1200円である。「西野駒背原と石仏群」を見に行く。途中「水芭蕉の群生地」と標識が出ていたので行ってみたが、まだ全然咲いていなかった。元に戻り「高原食堂」の前にある「西野稗田の碑と石仏群」を見学する。石仏の中には面白い牛頭観音像がある。さらに行くと「下の原覚明祠並びに平次郎地藏と石仏群」がある。ここもカビだらけである。開田高原の一番外れには「西野関屋の覚明石造群」がある。ここには普覚行者、覚明行者の像がある。この先へ行くと飛騨の日和田高原になる。そこは明日訪れる。一度戻り途中から県道へ入り「西又の石仏群」を見る。たくさんの石仏があるがほとんどカビで内容が分からない。一石三十三観音らしきものもある。ここから来た道を引き返し木曾福島へ行く。先ほど行った開田郷土館の隣に開田高原アイスクリームがあり、バナナとコーンのソフトクリームを食べる。絶品で今まで食べたソフトクリームの中でもベストである。ここでクリームチーズとカマンベールチーズをお土産に買う。今日の宿は木曾福島であるがまだ2時なので少し先の上松町にある「寝覚の床」へ行ってみる。ここは木曾川の水流によって花崗岩が侵食されてできた自然の地形で面白い。どこに車を止めて良いか分からず、とりあえず寝覚めの床美術公園というところがあったのでここに車を止めて、案内板に従って10分ぐらい川沿いを歩くと奇岩が見えてき

た。川はとても綺麗なエメラルドグリーンで周囲の桜も咲いていて綺麗である。車に戻り木曾福島へ戻る途中に「道の駅木曾福島」があったのでよる。今夜の宿「おん宿蔦屋」は旧道沿いにあり、前は造り酒屋の「七笑」である。5階の露天風呂付きの8畳の和室で椅子が欲しい。まず内湯と露天風呂へ行く。夕食はとても美味しかった。疲れたので部屋の露天風呂に入り9時には寝てしまった。

4月11日

2時ごろ目が覚め風呂に入る。次は6時に起きてまた風呂に入る。7時半に朝食、とても美味しい。納豆が一人前ずつ、藁にくるんであり、中に辛子とタレが入っているのが面白い。和食の他に、出来たてのクロワッサンがでてきた。ここの食事は夕食も朝食も美味しかった。今日まわる日和田高原は食べるところが全くないようなので、昨日お弁当を頼んでおいた。婦人会作るお弁当(330円)でそれが8時に届くのですぐ出発。昨日通ったところをまた通り、1時間で日和田高原に到着。予想通り全く何もなくて、もちろんコンビニもない。日和田の村によろず屋が一軒だけである。まず下村の集落にある「下村の祭場」を探すが小さい村なのに見つからない。犬の散歩をしている人に聞いてやっとわかった。よろず屋の裏の家の庭のようなところであった。ここに素晴らしい石仏が並んでいる。開田高原と違い保存状態がとても良い。丸彫りの馬頭観音、聖観音、一石に愛宕大神と秋葉大神が彫られているものその他馬頭観音などが並んでいる。次は村はずれにある日和田の血取場へ行く。血取場とは馬の育成のために春に血を抜くことで、村人総出の年中行事である。ここにもたくさんの石仏がある。一番目立つのは一石三十三体観音で、そのほか頭上に2頭、3頭の馬を乗せた馬頭観音もある。ここで事件が起きる。血取場の上に登る道があり、イノシシよけのフェンスを開けて登って行くと馬頭観音などの石仏があるという。早速左のほうに道があるので登って行くとフェンスがある。フェンスを開けてどんどん登る。15分ぐらい登るが道はまだまだ続いていて石仏などはない。20分ぐらい登った所で下で待っている妻から電話があり、通りがかりの人に聞いたならそこではないとのことである。もうがっかりしてすぐに下りる。戻ると妻が正しい道を教えてくれるが、ほとんど人が通らないので獣道さえない。もう疲れたし間違えるといけないので諦める。旧原家の石仏は原家の屋敷跡の石垣の上に並んでいる。ここでは馬に乗る金剛界大日如来が面白い。原家は開田高原の山下家と同じ大馬主で小作人に馬を貸し与えて巨万の富を築いた。明治の一時期には1000頭の木曾馬がいたという。この周りにもポツポツと馬頭観音がある。裏には大変立派な八幡神社がある。鳥居をくぐり本殿の横に石仏が祀られている。普賢行者、天照皇大神、覚明行者、八幡大神などがある。さらに村の奥に行くと「牧の祭場」があ

る。ここにもたくさんの石仏があるが秋葉大神と不動明王が素晴らしい。村の中は清流が流れている。橋を渡り向こう岸にある大きなイチイの木へ行く。その根元にも石仏が祀られている。日和田の村を出て隣の小日和田の村へ行く。日和田の村よりもさらに小さく同じように村の中を川が流れている。森越神社へ行く。参道に石仏が並んでいる。神社の横にも並んでいる。境内には鉄の檻でできたイノシシの罠がある。その先にもかたまって石仏がある。ここで一番の見所は神社の横の道を登って行くと峠にある石仏群である。この道は山を越えて隣の日和田の村とつながっている。この道の登りきったところ前坂峠に石仏が沢山ある。今度は間違えない。途中とても綺麗に御嶽山が見えるところがある。そこの木の根元に石仏が数体あった。さらに登るとT字路になっていてそこに三十三観音が安置されたお堂とその周りに石仏がある。さらに登るとまたお小さな堂があり、妙見菩薩が安置されている。その周りにも石仏がある。森越神社に戻りさらに村の奥へ行く。道の両側に数体の石仏が並んでいる。ほとんどが馬頭観音である。今は福寿草が綺麗である。国道へ戻り、池ヶ原上り口の石仏を見る。覚明神像、普覚神像、馬頭観音などの丸彫り像がある。このあたりからは御嶽山ばかりではなく、乗鞍岳も綺麗に見える。ここで朝もらった婦人会手製のお弁当を景色の良いところで食べる。お弁当を出していざ食べようとすると箸が見つからない。入れ忘れたのだ。私はインドで鍛えているので手で食べる。妻は小枝を二つ見つけてきて箸代わりにして食べている。すこぶる美味しい。330円とは信じられない。東京だったら7~8百円する。これで日和田高原の石仏めぐりは終了。これから今夜の宿のある奥飛騨の福地温泉に向かう。約二時間ひたすら走る。景色は素晴らしくとても大きいダムそばにある「道の駅飛騨高根」でドレッシングと蕎麦と唐辛子を買う。さらに15分ぐらいで朝日町に入る。ここで巨大なトーテムポールのようなオブジェが左右にそびえる公園のようなところを通り過ぎる。とても気になって戻り車を止めて見学する。5m以上ある。すぐにネットで調べたら円空仏であった。この地は円空が生まれて死んだ場所であった。ここにも道の駅があり、ここでは味噌と小さなフクロウの置物を買った。山の中をどんどん進む。なんと周囲には残雪がある。この道は高山を通らず直接奥飛騨へ行く。アルプスが美しい。今夜の宿は「隠庵飛騨路」という宿で全室露天風呂付きである。とても手入れが行き届いており、廊下はピカピカである。残念なことに、ここも畳で椅子がないが掘りごたつがあるので救われる。まずは貸切露天風呂へ行く。二つあり檜と岩風呂で共に良い。部屋に戻り、部屋の露天風呂に入る。これも良いが少し熱めで44度ぐらいか。掛け流しであるが水道がないので薄められない。夕食は飛騨牛づくしを頼んだ。おばんざいがあり、飛騨牛のマリネやサラダ、牛のにぎりなどが出て、最後は溶岩の上で焼くA-5の飛騨牛(150g)のステ

ーキである。最高であったが最後のステーキが食べられなくなるので岩魚の塩焼きと五平餅は食べなかった。ロビーでコーヒーを飲み部屋の風呂に入り9時に寝る。

4月12日

6時に貸切風呂へ行く。朝の冷たい空気が気持ち良い。8時朝食。とても美味しい。今日は特に予定はなく松本から戻るだけである。ここから松本まではとても景色が良い。安房トンネルを抜けると梓川に沿って絶景が続く。巨大なダムをぬけ、梓川とお別れして平地を走ると松本だ。松本に大好きな鰻屋があるのでそこでお昼を食べようと考えていたがまだ11時前なので諦め、スーパーによってソースカツ丼を買って長野自動車道から東京へ帰る。今回の旅は天候にも恵まれた石仏と温泉の旅でした。ただ一つとても残念なのが桜の開花でした。木曽も飛騨も桜の名所で石仏のあるところにはとても立派な桜の木がたくさんありました。高地なので気温は10度前後でしたので春はまだ先のようです。